氏　　名	髙田　美雪
学 位 の 種 類	修　士（看護学）
学 位 記 番 号	修　士　第　２０８　号
学位授与年月日	平成２８年3月１０日
学位論文題目	「ダ・ヴィンチ」によるロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出術を受けた患者の体験

別紙様式３

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	213	(ふりがな) 氏　　名	たかだ みゆき 髙田美雪
修士論文題目	「ダ・ヴィンチ」によるロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出術を受けた患者の体験		

研究の目的

RALPを受けた患者の、先進医療に対する期待や不安などの体験を明らかにする。

方法

1.研究デザイン：質的帰納的研究

2.調査方法：前立腺癌で RALP を受けた患者 8 名に半構成的面接を実施し、逐語録をデータとして分析した。

結果

分析の結果、150 のコードより、55 のサブカテゴリー、11 のカテゴリーを抽出した。。カテゴリーは、【癌への不安を回避するために受診】【癌の告知を受けて受容】【前立腺癌とその治療に不安】【手術法選択のために体験談とネットの情報を収集】【大学での先進医療に当惑】【治療への不安から医師を査定】【医師を信頼して決心】【ロボット手術の利点を理解して選択】【術後の身体的苦痛と将来への不安を経験】【ロボット手術の想像以上の成果に満足】【家族の心情的支援に喜び】の 11 が抽出された。

考察

分析の結果、RALP を受ける患者は、ダ・ヴィンチに対する知識や関心の有無やその程度にかかわらず、先進医療を受け入れていた。しかし、転移に対して強い不安を抱いていた。ダ・ヴィンチの低侵襲性、操作の正確性、根治性に高い期待を持っており、術後の早期回復を実感することで、想像以上の満足を感じていた。患者の家族にも同様のことが言えた。また、先進医療に関心を持ち、最善の治療のために積極的に情報収集するタイプと、医師に治療を一任してしまうタイプに分かれた。そして、そのどちらも親しい人の体験談を重視していることが示唆された。

総括

患者とその家族は先進医療の受け入れに柔軟であった。また、その認識と理解度は個人差があり、社会背景や病状を把握した上で、個別性を重視した対応が必要である。また、短い入院期間の中で患者との信頼関係を築き、質の高い看護を提供するためには、医師をはじめ、外来・病棟・手術室のスタッフが患者情報を密に共有し、一貫した対応ができるようなシステムの構築が不可欠であると考える。RALP は今後普及が促進していくと考えられ、体験談をはじめとした患者の視点に立った情報提供、それぞれの認識や理解度に応じた個別対応により、患者のアドヒアランスを最大限に引き出す質の高い看護の提供が求められており、本研究の知見が微力ながら寄与できるものと考える。

（備考）１．研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1200 字程度）

２．※印の欄には記入しないこと。

別紙様式４